

科目名	家畜人工授精概論		科目番号	畜-1
担当教員	井手上奈央	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	1学年 畜産コース	開講時期	6月～7月	
単位数	1	必須・選択の別	必須	
授業目標	家畜繁殖に係る基礎的な知識とともに人工授精の意義、方法を習得する。			
授業概要	家畜繁殖生理の基礎的な知識を習得するとともに人工授精に係る専門的知識を習得する。			
授 業 計 画	第1時限	畜産概論、家畜の栄養、家畜の飼養管理とアニマルウェルフェア		
	第2時限	家畜の育種、関係法規(改正家畜改良増殖法、家畜遺伝資源法等)		
	第3時限	生殖器解剖、繁殖生理①(神経・内分泌及び雌繁殖生理)		
	第4時限	繁殖生理②(神経・内分泌及び雌繁殖生理)、精子生理①(雄繁殖生理)		
	第5時限	精子生理②(雄繁殖生理)、種付けの理論①(妊娠と分娩)		
	第6時限	種付けの理論②(妊娠と分娩)、家畜の審査、発情鑑定、精液精子検査法		
	第7時限	家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存①		
	第8時限	家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存②、総括テスト		
テキスト、参考書	家畜人工授精講習会テキスト(日本家畜人工授精師協会)			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する。			
その他				

科目名	家畜飼養		科目番号	畜-2
担当教員	藤井真次(畜産協会)	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	1学年 畜産コース	開講時期	1月～2月	
単位数	1	必須・選択の別	必須	
授業目標	家畜の飼養管理技術、施設、経営についての専門的知識を習得し、飼養管理の応用力を養う。			
授業概要	家畜飼養における栄養の役割の解説、各種家畜の飼養管理、家畜飼養における環境対策等について講義を行う。			
授業計画	第1時限	家畜飼養管理とアニマルウェルフェア、家畜における消化及び吸収の仕組み		
	第2時限	飼料成分と家畜栄養上の役割、飼料の種類及び特性		
	第3時限	鶏(採卵鶏・肉用鶏)の主要品種、鶏に必要な栄養素、成長と組織、一般的飼養管理技術		
	第4時限	豚の主要品種、豚に必要な栄養素、成長と組織、体構成と体型審査、一般的飼養管理技術		
	第5時限	乳牛の主要品種、乳牛に必要な栄養素、成長と組織、体構成と体型審査、一般的飼養管理技術		
	第6時限	肉牛の主要品種、肉牛に必要な栄養素、成長と組織、体構成と体型審査、一般的飼養管理技術		
	第7時限	各畜種ごとの畜舎等畜産施設の種類及び特性、畜産環境保全技術		
	第8時限	総括テスト		
テキスト、参考書	日本標準飼料成分表(中央畜産会) 日本飼養標準・酪農・肉用牛・豚・家禽(中央畜産会)			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する。			
その他				

科目名	家畜生理・解剖		科目番号	畜-3
担当教員	齊藤武司	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	1学年 畜産コース	開講時期	5月～7月	
単位数	3	必須・選択の別	必須	
授業目標	家畜の生理及び各器官とその役割について専門的な知識を習得する。			
授業概要	解剖学は個体を構成する骨組みから各器官の位置・形状・構造など体のなりたちを調べ、生理学は個体が生存するための各器官のはたらき、機能を調べる学問である。構造と機能は非常に密接な関係にあるので、あわせて理解することが重要である。			
授 業 計 画	第1時限	総論		
	第2時限	体の構成(妊娠と分娩①)		
	第3時限	骨格系①(妊娠と分娩②)		
	第4時限	筋系(生殖器・妊娠と分娩①)		
	第5時限	血液・組織液およびリンパ		
	第6時限	循環器系		
	第7時限	呼吸器系①		
	第8時限	呼吸器系②		
	第9時限	消化器系①		
	第10時限	消化器系②		
	第11時限	生命維持の基本①(生殖器・繁殖生理・精子生理①)		
	第12時限	生命維持の基本②(生殖器・繁殖生理・精子生理②)		
	第13時限	泌尿器系(生殖器・繁殖生理・精子生理③)		
	第14時限	生殖器系①(生殖器・繁殖生理・精子生理④)		
	第15時限	生殖器系②(生殖器・繁殖生理・精子生理⑤)		
	第16時限	内分泌系①(生殖器・繁殖生理・精子生理⑥)		
	第17時限	内分泌系②(生殖器・繁殖生理・精子生理⑦)		
	第18時限	神経系①(生殖器・妊娠と分娩②)		
	第19時限	神経系②(生殖器・妊娠と分娩③)		
	第20時限	感覚器系および皮膚とその付属器		
	第21時限	体温調節及び適応(飼養管理とアニマルウェルフェア)		
	第22時限	栄養素(家畜の栄養)		
	第23時限	骨格系②(家畜の体尺測定と体型審査)		
	第24時限	総括テスト		
テキスト、参考書	家畜解剖生理学テキスト、家畜解剖と生理(養賢堂)			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する。			
その他				

科目名	家畜育種		科目番号	畜-4
担当教員	妹尾明花	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	1学年 畜産コース	開講時期	4月～5月	
単位数	1	必須・選択の別	必須	
授業目標	畜産を学ぶうえで必要な家畜の育種改良の専門的な知識を理解する。			
授業概要	分子遺伝学が急速に進展し、動物の遺伝・育種の分野でその役割が急速に高まる中で、家畜をそれぞれの目的に向かって遺伝的に変えていくための理念と具体的やり方などについて講義する。			
授 業 計 画	第1時限	始めに 遺伝学とは、家畜育種の沿革と目標		
	第2時限	家畜の種と品種、形質とその発現と選抜方法		
	第3時限	遺伝の仕組み、メンデルの法則とその拡張		
	第4時限	遺伝子型頻度と遺伝子頻度 主な質的形質の遺伝、選抜方法		
	第5時限	ハーディ・ワインベルグの法則、遺伝的構成、交配方法		
	第6時限	量的形質と連続変異、能力検定		
	第7時限	分散とその分割、遺伝的パラメータ、家畜の登録制度		
	第8時限	総括テスト		
テキスト、参考書	動物の遺伝と育種 新農業シリーズ(朝倉書店、佐々木義之)			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する。			
その他				

科目名	畜産環境		科目番号	畜-5
担当教員	原 基	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	1学年 畜産コース	開講時期	5月～6月	
単位数	1	必須・選択の別	必須	
授業目標	循環型(持続的)農業の展開のため、畜産環境に関わる法体系、家畜排せつ物の処理技術、家畜堆肥の利用技術等を理解・習得する。			
授業概要	畜産業にとって家畜排せつ物の適正な管理は欠かせない条件であることや循環型農業の定着には堆肥(有機物)に大きな役割があることが理解・習得されるよう講義する。			
授 業 計 画	第1時限	畜産公害の現状		
	第2時限	香川県における畜産保全の方針と対策		
	第3時限	畜産環境保全に関する法律の概要①		
	第4時限	畜産環境保全に関する法律の概要②		
	第5時限	家畜排せつ物の処理方式と堆肥化技術(①家畜に対する環境の影響、②畜舎等畜産施設の種類及び		
	第6時限	家畜堆肥の施用効果と施肥設計		
	第7時限	耕畜連携と堆肥の利用促進に向けての考え方		
	第8時限	総括テスト		
テキスト、参考書	「畜産環境整備技術ハンドブック(H17年)」からコピーしてテキスト代替			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する。			
その他	国、畜産関係機関のパンフレット等を参考資料として配布。			

科目名	乳用牛		科目番号	畜-6
担当教員	十川政典(畜産協会)	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	1学年 畜産コース	開講時期	1月	
単位数	1	必須・選択の別	必須	
授業目標	酪農の現状と課題、乳用牛の品種、飼養管理技術、施設、酪農経営等を学ぶ上で必要な基本的な知識の理解を図る。			
授業概要	日本および香川県の酪農の現状と課題、先進経営における酪農経営の現状と課題を提議したうえで、乳用牛の飼育技術、経営技術、アニマルウェルフェア等について幅広く講義する。			
授業計画	第1時限	日本の畜産の動向(一般動向、牛乳・乳製品、飼料作物・配合飼料、畜産環境対策) 香川の畜産の状況		
	第2時限	先進的畜産経営の動向(酪農経営)、アニマルウェルフェアの考え方に対応した乳用牛の使用管理指針		
	第3時限	乳用牛の品種、飼養管理①(乳牛の特性、起源の品種、繁殖生理と交配・分娩)		
	第4時限	飼養管理技術②(泌乳の生理と搾乳、搾乳牛の飼育、乳牛の育成)		
	第5時限	飼養管理技術③経営(飼料とその利用、牛舎・施設の利用、衛生と病気、経営とその改善)		
	第6時限	乳用牛の改良(牛群検定、後代検定、体型審査と登録)		
	第7時限	乳牛の飼養標準		
	第8時限	総括テスト		
テキスト、参考書	乳用管理の基礎と応用(ディリー・ジャパン)他			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する。			
その他				

科目名	養豚		科目番号	畜-7
担当教員	豊嶋 愛	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	1学年 畜産コース	開講時期	1月～2月	
単位数	1	必須・選択の別	必須	
授業目標	国内外の養豚の発達と本県の現状と諸課題など基礎的な知識の習得並びに豚の品種、飼養管理技術、施設、経営についての専門的知識を飼養管理に応用できる力を養う。			
授業概要	養豚の基礎知識に加えて、効率的飼養管理、生産物の品質向上・安全対策など広範囲な具体例を示し教示する。			
授 業 計 画	第1時限	養豚の歴史、世界及び国内の養豚の現状、豚の品種の特徴・利用方法		
	第2時限	豚の育種改良と登録のしくみ(体型審査と登録)、生産物の評価方法		
	第3時限	子豚及び肉豚の生理と飼育技術		
	第4時限	種豚の繁殖と豚人工授精技術		
	第5時限	豚人工授精技術、飼料の利用方と飼料給与設計		
	第6時限	ふん尿の利用と対策、豚の衛生対策と病気		
	第7時限	豚舎、各施設及び専門機器の構造並びに利用方法		
	第8時限	総括テスト		
テキスト、参考書	新版家畜飼育の基礎(農山漁村文化協会、阿部亮)			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する。			
その他				

科目名	肉用牛		科目番号	畜-8
担当教員	渡邊朋子	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	1学年 畜産コース	開講時期	1月～2月	
単位数	1	必須・選択の別	必須	
授業目標	肉用牛の品種、飼養管理技術、施設、経営についての専門知識を習得し、飼養管理の応用力を養う。			
授業概要	肉用牛の品種と特徴、経営方式並びに管理施設、繁殖・育成・肥育の管理技術、肉用牛の審査方法に加え、アニマルウェルフェアなどを幅広く概観し講義する。			
授 業 計 画	第1時限	肉用牛の品種と特徴(和牛及び外国種の品種等)、アニマルウェルフェアの考え方に対応した肉用牛の飼養管理指針		
	第2時限	経営方式と管理施設(繁殖経営、肥育経営、一貫経営等)		
	第3時限	繁殖管理技術(繁殖牛の生理と交配・分娩等)		
	第4時限	育成管理技術(肥育素牛・繁殖牛の育成等)		
	第5時限	肥育管理技術(粗飼料と濃厚飼料、飼料の利用等)		
	第6時限	肉用牛の審査方法(体型審査と登録等)		
	第7時限	枝肉規格(歩留等級・肉質等級と流通等)		
	第8時限	総括テスト		
テキスト、参考書	さらによく育つ子牛生産(日本畜産振興) どんどんよくなる肥育管理(日本畜産振興) 新版 家畜飼育の基礎(農山漁村文化協会、阿部亮)			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する。			
その他				

科目名	養鶏		科目番号	畜-9
担当教員	三谷英嗣	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	1学年 畜産コース	開講時期	2月	
単位数	1	必須・選択の別	必須	
授業目標	鶏の品種、飼養管理技術、施設、経営についての専門的知識を習得し、飼養管理の応用力を養う。			
授業概要	鶏の特性や品種、採卵鶏とブロイラーの飼養管理技術、施設、経営等養鶏に関する専門的事項について講義する。			
授業計画	第1時限	鶏の起源と特性、肉用鶏・卵用鶏等の品種特徴		
	第2時限	鶏の衛生と病気		
	第3時限	種卵の採取とふ化、ひなの生理と育すう		
	第4時限	採卵鶏の生理と飼育技術		
	第5時限	肉用鶏の生理と飼育技術		
	第6時限	鶏の栄養と飼料、飼料の種類と特徴、鶏舎・施設の利用		
	第7時限	鶏ふんの処理と利用、経営とその改善		
	第8時限	総括テスト		
テキスト、参考書	家畜飼育の基礎(農文協、並河澄他) 家禽学(朝倉書店、奥村純市・藤原昇)			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する。			
その他				

科目名	家畜衛生		科目番号	畜-10
担当教員	齊藤武司	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	2学年 畜産コース	開講時期	10月～11月	
単位数	2	必須・選択の別	必須	
授業目標	家畜衛生の役割と重要性、加えて予防主体の対応の必要性を解説し、病気の発生を防止して経営の収益性向上に寄与する。			
授業概要	頭羽数の規模拡大や管理方法の改善に伴い発生する病気の複雑化、また海外から侵入する病気の危険性及び発生状況を理解させ、家畜衛生の基礎知識を習得させる。			
授 業 計 画	第1時限	家畜衛生の役割		
	第2時限	飼養管理方法と家畜衛生		
	第3時限	家畜に対する環境の影響		
	第4時限	畜産施設の種類及び特性、ふん尿処理と利用		
	第5時限	消毒と滅菌		
	第6時限	牛の病気(①消化器系疾患、②呼吸器系疾患等)		
	第7時限	牛の病気(③中毒、④泌乳器系・分娩前後の疾患等)		
	第8時限	牛の病気(⑤法定伝染病・⑥届出伝染病)		
	第9時限	豚の病気(①法定伝染病・②届出伝染病)		
	第10時限	鶏の病気(①法定伝染病・②届出伝染病)		
	第11時限	特用家畜及びミツバチ等の病気		
	第12時限	最近の家畜伝染病の発生状況と対策		
	第13時限	家畜疾病の予防		
	第14時限	衛生管理の基本と計画的な衛生管理(ワクチン投与等)		
	第15時限	家畜衛生行政のしくみ		
	第16時限	総括テスト		
テキスト、参考書	家畜衛生(東京農業大学、平山常雄・渡邊忠男)ほか			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する。			
その他				

科目名	受精卵移植概論		科目番号	畜-11
担当教員	笹田布佐子	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	2学年 畜産コース	開講時期	5月～7月	
単位数	2	必須・選択の別	必須	
授業目標	牛の受精卵移植技術についての基本的な知識を習得させるとともに体外受精技術、性判別技術等についても講義する。			
授業概要	牛の受精卵移植技術について、テキストに基づき学習する。			
授 業 計 画	第1時限	受精卵移植技術の概要		
	第2時限	過排卵処理技術		
	第3時限	過排卵処理技術		
	第4時限	採卵技術		
	第5時限	採卵技術		
	第6時限	卵鑑別技術		
	第7時限	凍結保存技術		
	第8時限	凍結受精卵融解処理技術		
	第9時限	移植技術(子宮頸管経由法)		
	第10時限	PCR法による受精卵の性判別技術		
	第11時限	体外受精技術		
	第12時限	超音波誘導経膈採卵技術		
	第13時限	各種溶液の作成		
	第14時限	器具機材の滅菌消毒		
	第15時限	受精卵移植関連技術		
	第16時限	総括テスト		
テキスト、参考書	牛の受精卵移植技術マニュアル(愛知県畜産総合センター)他			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する。			
その他				

科目名	飼料作物		科目番号	畜-12
担当教員	上村知子	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	2学年 畜産コース	開講時期	9月	
単位数	1	必須・選択の別	必須	
授業目標	飼料作物の種類・品種と栽培、利用方法について学ぶ。			
授業概要	国内外の飼料を取り巻く情勢、国内及び県内の飼料作物の栽培状況、飼料作物の栽培、サイレージを主とした調製及び貯蔵技術と収穫作業体系について講義する。			
授 業 計 画	第1時限	自給飼料生産の意義、飼料作物の特性について		
	第2時限	飼料作物の情勢について、飼料作物の栽培状況について		
	第3時限	飼料作物の利用法について、飼料作物の特性について		
	第4時限	サイレージ調製の理論、サイレージ調製の技術		
	第5時限	飼料作物の収穫調製技術について、主要作物の栽培について		
	第6時限	主要作物の収穫方法について、飼料作物栽培用機械について		
	第7時限	気候による飼料作物の選抜について、今後の飼料作物について		
	第8時限	今後のサイレージについて、総括テスト		
テキスト、参考書	粗飼料・草地ハンドブック(養賢堂、高野信雄著)			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する			
その他	農大または畜産試験場で実施する。			

科目名	畜産物加工		科目番号	畜-13
担当教員	谷原礼諭	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	2学年 畜産コース	開講時期	7月	
単位数	1	必須・選択の別	必須	
授業目標	牛乳など畜産物の加工方法についての専門知識の習得する。			
授業概要	肉、乳、卵などの畜産物の性質、性状を理解し、それぞれの基本的な加工技術について専門的知識を養う。			
授業計画	第1時限	乳と乳成分		
	第2時限	食肉と成分等		
	第3時限	卵と成分等		
	第4時限	畜産物の製造(乳製品)		
	第5時限	畜産物の製造(乳製品)		
	第6時限	畜産物の製造(肉製品)		
	第7時限	畜産物の製造(肉製品)		
	第8時限	総括テスト		
テキスト、参考書	畜産加工(朝倉書店、細野明義他)、畜産食品加工学(川島書店、斉藤善一他)など			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する。			
その他	農大または畜産試験場で実施する。			

科目名	畜産経営		科目番号	畜-14
担当教員	二宮 浩	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	2学年 畜産コース	開講時期	4月～5月	
単位数	1	必須・選択の別	必須	
授業目標	畜産経営における経営の分析を通して畜産経営の特徴や経営目標の設定について理解する。			
授業概要	環境や家畜福祉など今日的問題にもふれ、畜産物の生産と利用、環境問題を通して畜産経営の特徴や経営目標などについて講義する。			
授 業 計 画	第1時限	日本の畜産と世界の畜産、畜産経営と畜産物市場		
	第2時限	家畜と家畜化、家畜の品種		
	第3時限	畜産物の生産と利用		
	第4時限	家畜の管理と畜舎(環境と管理、行動と管理、畜舎と付属施設・設備)		
	第5時限	深刻化する環境負荷問題、畜産と地球環境問題		
	第6時限	排せつ物の処理利用の現状、家畜排せつ物の肥料利用など		
	第7時限	動物と人間との問題、アニマルウェルフェア		
	第8時限	総括テスト		
テキスト、参考書	最新畜産学(水間豊他編)他			
成績評価法	講義毎の小テスト(50%)と総括テスト(50%)の成績により評価する。			
その他				

科目名	畜産物加工演習		科目番号	畜-15
担当教員	谷原礼諭 他 酪農肉牛・養鶏担当	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	2学年 畜産コース	開講時期	7月、10月	
単位数	2	必須・選択の別	必須	
授業目標	畜産物の加工技術の習得する。			
授業概要	肉、乳、卵などの畜産物の特性を理解し、それぞれの基本的な加工技術を養う。			
授 業 計 画	第1時限	肉製品の加工製造 食肉加工場視察(視察先の都合により内容変更あり)		
	第2時限			
	第3時限			
	第4時限			
	第5時限			
	第6時限			
	第7時限			
	第8時限			
	第9時限	乳製品の加工製造		
	第10時限			
	第11時限			
	第12時限			
	第13時限	卵製品の加工製造		
	第14時限			
	第15時限			
	第16時限			
テキスト、参考書	自然流ハムソーセージ燻製(農文協)他			
成績評価法	試験の成績			
その他	畜産試験場で実施、酪農肉牛・養豚・養鶏担当研究員が協力する。			

科目名	畜産演習		科目番号	畜-16
担当教員	齊藤武司	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	2学年 畜産コース	開講時期	11月～12月	
単位数	2	必須・選択の別	必須	
授業目標	畜産経営の実態を把握するとともに、家畜及び加工品の流通部門の基礎的な知識を習得する。			
授業概要	生産農家での家畜の見方、各種検索システムや畜産生産物の加工、流通部門の実態を把握し広く専門的知識を習得し、今後の経営の応用力を養う。			
授 業 計 画	第1時限	優良酪農経営農家の調査		
	第2時限	優良養鶏経営農家の調査		
	第3時限	牛乳処理工場の調査		
	第4時限	食肉処理センターの調査		
	第5時限	鶏卵処理センターの調査		
	第6時限	牛乳検査協会の調査		
	第7時限	食肉加工場の調査		
	第8時限	畜産共進会の調査		
	第9時限	家畜市場の調査		
	第10時限	食鳥センターの調査		
	第11時限	放牧牛の調査		
	第12時限	飼料作物の調査		
テキスト、参考書	家畜商講習会資料等			
成績評価法	レポートにより評価			
その他	視察先及び講義等の都合により、実施時期及び内容等の変更あり。 家畜商講習会(2日間)に出席した場合は、畜産演習として認定する。			

科目名	農場実習		科目番号	畜-17
担当教員	コース教諭、畜産試験場・他先進農家等	科目区分	専門教育科目	
対象学年、コース	1学年 畜産コース	開講時期	通年	
単位数	10	必須・選択の別	必須	
授業目標	飼養規模の拡大は家畜の能力の向上と管理技術の発達によるものであるが基本は動物の生理に見合った管理に基づいた健康な家畜の飼育である。			
授業概要	各家畜の特性を生かし、健康に育てるため、家畜がもっている生理、習性を理解し、能力を充分発揮できる飼料給与や管理を身に付けることを目的とする。			
授業計画	第1時限 ・	畜産試験場において、酪農肉牛担当・養豚担当・養鶏担当・飼料環境担当研究員等の指導の下、一般的な家畜飼養及び管理全般の基本実習を行う。		
	第35時限			
	第36時限 ・	肉用繁殖牛、肥育牛の管理及び取扱い、発情発現、適期交配、自給飼料の栽培管理		
	第50時限	繁殖豚、肥育豚の管理及び取扱い、発情発現、適期交配		
	第51時限 ・			
	第75時限	乳用牛の管理及び取扱い、発情発現、適期交配、自給飼料の栽培管理		
	第76時限 ・			
	第100時限	採卵鶏、ブロイラーの管理及び取扱い(入雛から出荷)		
	第101時限 ・			
	第150時限	各家畜の飼料給与及び手入れ、除糞作業、発酵処理、施肥等		
	第151時限 ・			
第180時限	牛・豚の体側、牛・豚の審査等			
第181時限 ・				
第224時限				
テキスト、参考書				
成績評価法	農場実習日誌により評価			
その他	畜産試験場以外は先進農家等で実習を行う。家畜衛生管理等の都合により受入農家の変更等あり。通常2年毎に家畜人工授精師講習会開催(30日程度)があるため、夏期休暇等の休暇中の当番としての出席は必要なし。			